

Newsletter



日本教育情報学会
JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

NO. 89 2000. 9. 5

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 産能大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel: 03-5470-2370 Fax: 03-5487-8779 インターネットアドレス <http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsei>

日本教育情報学会 第16回年会 参加申込み受付中 (事前参加受付 10月13日まで)

Newsletter NO. 88でご案内のとおり、本年度の年会は岐阜県教育委員会の後援をいただき、11月1日12日の両日、岐阜女子大学文化情報研究センターを会場に開催いたします。「学校・家庭・地域社会の連携と情報」をテーマとしたシンポジウム、「デジタル・アーカイブ化の課題」についてのパネル討論をはじめ、多数の研究発表が行われます。「デジタル・アーカイブ」コンクールを併催し、会場に展示いたします。また、年会前日の10日には同会場で、学習システム研究会主催による総合的な学習と情報教育の実践発表会を開催いたしますので、併せてご案内いたします。

参加お申込みにつきましては、下記の要項をご熟読の上、期限内に手続きくださいますようお願いいたします。多数のご参加とお待ちしております。

期 日 2000年11月11日(土)・12日(日)

会 場 岐阜女子大学 文化情報研究センター

所在地 〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10 杉山ビル (TEL058-267-5237)

交 通 JR岐阜駅または名鉄新岐阜駅からタクシー10分

市営バス：JR岐阜駅(1)(2)乗り場、名鉄新岐阜駅(4)(5)乗り場から「①忠節 鷺山まわり」行(約10分間隔運行)乗車、所要15分「市庁舎西口」下車すぐ

後 援 岐阜県教育委員会

協 賛 地域資料デジタル・アーカイブ化協議会、学習システム研究会、初等教育研究所

事務局 岐阜女子大学 文化情報研究センター 内 日本教育情報学会第16回年会実行委員会

日 程

(11月10日 10:00-16:00 総合的な学習と情報教育の実践発表会)

	A会場	B会場	C会場	D会場
(第1日) 11月11日(土)				
9:30-12:00	課題研究①	一般研究(1B)	一般研究(1C)	一般研究(1D)
12:00-13:00	昼 休 憩			(理事会・評議員会)
13:00-13:30				総会・学会賞表彰式
13:30-15:30				シンポジウム
15:40-17:40		一般研究(2B)	一般研究(2C)	課題研究④
18:00-19:00	懇親会			
(第2日) 11月12日(日)				
9:00-12:00	一般研究(3A)	一般研究(3B)	一般研究(3C)	課題研究②
12:00-13:00	昼 休 憩			
13:00-16:30	パネル討論	一般研究(4B)	一般研究(4C)	課題研究③

(11月12日 デジタル・アーカイブコンクール表彰式)

(1) シンポジウム

テーマ 「学校・家庭・地域社会の連携と情報」

コーディネータ：有園 格（静岡文化芸術大学）

基調提案：木田 宏（日本教育情報学会会長）

シンポジスト：富岡 賢治（国立教育研究所）、服部 晃（岐阜県総合教育情報センター）、
秦 政春（大阪大学人間科学部）

衛星通信、インターネット、ビデオ、オンデマンドなどの情報技術を用いた教育の多様化が進み、21世紀に向けた、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任のもとに連携協力して教育問題、青少年問題に対応できる新しい教育システムの構成が必要となってきた。

シンポジウムでは、今日求められている、①心の教育を育てるネットワーキング、②地域社会と学校・家庭の情報ネットワークの諸問題、③学級崩壊・いじめ問題と学校・家庭・地域社会の諸問題、など現代の教育問題を捉えながら新しい教育システムの構築にむけた基本視点を究明する。

なお、このシンポジウムでの提案を受けてパネル討論では、具体的な情報技術の教育システムを総合的視点から検討する。

(2) パネル討論

テーマ 「デジタル・アーカイブ化の課題 ～教育利用を目的として～」

コーディネータ：加藤 直樹（岐阜大学）

パネリスト：坂井 知志（常磐大学）、井上 透（オリンピック記念青少年総合センター）、
久世 均（岐阜県生涯学習センター）、井上 雄志（河合村中学校教諭）

教育センター、各学校、博物館、企業、大学、市町村などで多くの資料をデジタル化し、それらの利用がインターネット、CDなどを用いて可能な状況になってきた。今後のデジタル・アーカイブ化の課題とその方向性を検討したい。

(3) 課題研究テーマ

課題1. 「地域文化情報メディアと教育」

地域を基盤にした教育が各分野で実践されているが、地域の文化資料をデジタル化し、新しい教育メディアとしての活用が必要とされだし、研究が進みだした。このため、地域資料のデジタル化と、その流通、教育利用の実践をもとにした今後の在り方について検討したい。

課題2. 「情報教育と総合的な学習」

小学校・中学校・高校での情報処理教育の体系的なカリキュラム、教育実践をもとに、総合的な学習での情報教育の方法・実例について検討したい。とくに、小、中、高等学校での情報教育の体系化についての実践報告。

課題3. 「教科教育と情報活用」

各教科で教師がコンピュータ等を用いた資料の提示、衛星通信等を用いた教育、学習者の情報処理活動などが最近の情報技術の発展により情報活用を検討すべき時期になってきた。このため今回、教育を進めるときの基礎として必要な情報処理、そこで利用する資料などについて、実践研究をもとに検討したい。

課題4. 「遠隔教育」

大学・大学院における衛星通信放送を用いた遠隔教育、小学校、中学校、高等学校、テレビ会議等を用いた遠隔教育など、新しい教育の方法が進みだし、また、今回その教育実践をもとに新しい教育システムとしての遠隔教育の利用について検討したい。

(4) 参加申込方法

参加申込書（葉書）に必要事項をご記入の上、第16回年会実行委員会事務局まで送付して下さい。送付の際には、お手数ですが切手をお貼り下さい。お支払いは、同封の郵便振替用紙をご利用ください。期日までに申込みいただけない方は、当日参加扱いになります。振込みは、若干事務手続きに時間がかかるため、下記期日までとします。期日を過ぎた場合は、当日会場受付でお支払いください。その場合、参加費は当日扱いとなります。

参加申込締切 2000年10月13日(金) 必着
振込期限 2000年10月31日(火) 郵便局窓口期限
郵便振替口座番号 00850-3-131749
口座名 日本教育情報学会第16回年会

・参加費

・会員の予約の場合

参加費 3,000円 論文集 3,000円 懇親会 5,000円

・当日参加・会員でない場合

参加費 4,000円 論文集 3,000円 懇親会 4,000円

(論文集は、年会当日受付にてお渡しいたします)

・論文集の郵送申込について(年会に参加されない方)

年会に参加されないで論文集を購入希望の方は、参加申込書の該当欄にご記入の上、申込をしてください。年会終了後論文集を送付いたします。

論文集 3,500円(郵送料、事務諸経費を含む)

・宿泊について

宿泊については、各自でご手配ねがいます。

(5)「デジタル・アーカイブ」コンクール ===作品募集中===

主催：日本教育情報学会 主管：学習システム研究会 後援：岐阜県教育委員会

共催：地域資料デジタルアーカイブ化協議会

社会の情報化が進みだし、通信ネットワークを用いて多様な資料が誰にでも利用できる時代になろうとしています。この第二次の新しい情報化社会では、ITの発展に必要なデジタル化された良質なコンテンツ(情報の内容)作りと流通が求められています。

日本全国、各地域には、多くの文化、芸術、産業、教育等の資料があり、これらをいかに情報化し、ITで利用できるデジタル化された多様なコンテンツを作るかが課題です。情報化社会の発展のため、次のような「デジタル・アーカイブ」コンテストを開催いたしますので、各分野の方々の応募参加をお願いします。

①対象：今回は、以下のようなものを対象としたデジタルコンテンツ作品を募集します。

- ・地域の文化、芸術、歴史、民俗資料等(祭り、方言、昔話、建物、服装、生活慣習 など)
- ・地域の観光資料
- ・博物館、科学館、図書館、美術館等の情報や学校、生涯学習施設等の情報
- ・自分史、社史、学校史、市町史

コンテンツの形式は一般的なWebブラウザ(IE4.0以上、NN4.5以上)で閲覧可能な形式で作成して下さい。特殊なプラグイン等の使用は避けるようにして下さい。

②対象部門：・学校の部(小学校・中学校・高等学校・盲学校・聾学校・養護学校・教育委員会)
・一般の部(企業、団体等)

③提出期日：2000年10月20日(早めの提出をお願いします)

④応募方法・提出媒体：規定の応募用紙に必要事項をご記入のうえ、Windows95/98/NTで使用可能なMOまたはCD-Rに作品を納め、提出先に郵送してください。※URLでの応募も受け付けます(入選作品につきましては、後ほどMO等での提出をお願いします)

⑤提出先：岐阜女子大学 文化情報研究センター内 「デジタル・アーカイブ」コンクール係
〒500-8813 岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F

Tel: 058-267-5237 mail: 16gakkai@gijodai.ac.jp

⑥著作権等：著作権については応募される方で責任を持って問題がないようにしておいて下さい。(コンクール主催者は内容的に責任がもてませんので、よろしくご依頼致します。)

⑦審査・表彰：◇学校の部：最優秀賞3点、優秀賞10点、奨励賞多数、企業賞多数

(予定) ◇一般の部：最優秀賞1点、優秀賞3点

◇表彰式は、11月12日(日)、日本教育情報学会年会会場内で開催予定。

(6) 総合的な学習と情報教育の実践発表会

期 日 2000年11月10日(金) 10:00-16:30

会 場 岐阜女子大学 文化情報研究センター

主 催 学習システム研究会, 日本教育情報学会, 地域資料デジタル・アーカイブ化協議会

概 要 新しい学習指導要領では総合的な学習での情報教育や高等学校での教科「情報」が新たに加えられ, 各学校で準備が始まっています。

現在, 小学校・中学校・高等学校では実際にそれぞれの分野の共同研究が始められています。岐阜県では, すでに情報関係のテキスト, CD, を制作しました。今回はそれを用いた実践研究の成果について, 現場の先生を中心に報告を依頼しました。各学校, 先生方の参考になるように企画いたしましたので多数の参加をお願いいたします。

授業実践の報告は, 各実践校と報告会場をテレビ会議システムで結び報告会場で授業を見られるようにいたします。実践資料の提供も計画しています。

参加申込 年会参加申込書(葉書)の該当欄に参加の旨をご記入の上, 合せてお送りください。

資料代 2,000円(当日, 受付にてお支払ください)

実践報告事務局 岐阜女子大学文化情報研究センター 学習システム研究会

Tel: 058-267-5237 Fax 058-267-5238

(7) 年会発表一覧(8月25日現在)

(課題研究1) 地域文化情報メディアと教育 11日(土) 9:30~12:00 A会場

- 1A1 生涯学習情報流通の方法とデータベースシステム開発に関する研究
-国立婦人教育会館での事例と枠組みづくり-
安達一寿(十文字学園女子大学), 森高桂子, 宮沢紀美(国立婦人教育会館)
- 1A2 素材循環型地域学習環境「かすみがうら*ネット」の構築
前川道博(東北芸術工科大学)
- 1A3 文化情報のデジタル・アーカイブ開発システムについて
中村茂生, 谷口知司, 杉山博文, 後藤忠彦, 三宅茜巳, 塩田公子(岐阜女子大学)
- 1A4 社会教育施設における情報化の進展と生涯学習支援
久世均(岐阜県生涯学習センター)
- 1A5 書に関するデジタル・アーカイブ化について
吉澤龍二, 中村重勝, 北川有岐子(岐阜女子大学)
- 1A6 自然体験学習資料等のデジタル化方策について
桜庭望(北海道立社会教育総合センター)
- 1A7 地域素材の教育への利用
加藤卓(高山市北小学校), 瀬ノ上裕(高山市岩滝小学校), 加納豊子(岐阜大学)

(一般研究) 教育情報 11日(土) 9:30~12:00 B会場

- 1B1 教育研究文献データベースEDMARSからみた“教育情報研究”の動向
興戸律子(岐阜大学)
- 1B2 地域文化情報の整備に関する基礎研究
加納豊子(岐阜大学)
- 1B3 生涯学習に不可欠な文献調査法
毛利和弘, 渡辺昌介(亜細亜大学)
- 1B4 論文の寿命: 学術論文の情報教育・理科教育の教材としての提案とその実践
川上紳一, 神野愛, 上田康信, 興戸律子(岐阜大学)
- 1B5 教員情報リテラシー向上のための「授業情報システム」の構築
田中正己(岐阜県総合教育センター)
- 1B6 情報格差改善の一方策としての社会教育・生涯学習支援
山尾美香(東京大学院)

(一般研究) マルチメディア 11日(土) 9:30~12:00 C会場

- 1 C 1 「生きる力」を育む、アントレプレナー教育の教材ソフトの体系
藤崎雅行(共立女子大学), 大江建(早稲田大学)
- 1 C 2 CGによる喜怒哀楽の表現とその伝達
渡辺寛二, 飯田慈子(大阪電気通信大学短期大学部),
岡本久仁子(梅花女子短期大学), 角智津子(大手前女子短期大学)
- 1 C 3 マルチメディアを用いたプレゼンテーションと学生による評価に関する実験とその考察
飯田慈子, 渡辺寛二, 横山宏(大阪電気通信大学短期大学部)
- 1 C 4 プログラミング教育に関する一考察
内田智史(神奈川大学)
- 1 C 5 マルチメディア教材による学習課題設定支援の有効性
小田光宏, 北本正章, 古賀節子(青山学院大学)
- 1 C 6 教師の課題解決を自己表現に関する研究 -国際理解教育の題材を通して-
浅井和行, 大隅紀和(京都教育大学)
- 1 C 7 マルチメディアを意識した学内LANシステム
山路康貴, 野村良雄, 野中登, 中島守(愛知工科大学)

(課題研究4) 遠隔教育 11日(土) 9:30~12:00 D会場

- 1 D 1 タイ国との遠隔同時共同授業における児童の意識の変容過程(その2)
佐々木真理, 藤本悟史(京都教育大学), 中江義磨(宇治市立南小倉小学校)
- 1 D 2 大学院夜間遠隔講義における数学科教育教材研究の一例
中馬悟朗(岐阜大学)
- 1 D 3 CSと双方向通信(テレビ会議システム)を用いた遠隔教育の構成と課題
谷口知司, 後藤忠彦(岐阜女子大学), 加藤直樹, 村瀬康一郎, 松川禮子(岐阜大学)
- 1 D 4 遠隔講義におけるプレゼンテーション技術の向上を図る教師訓練プログラムの開発・評価(1)
-教師訓練プログラムの開発-
林徳治(山口大学), 真下知子(平安女学院大学), 谷口由美子(三田学園)
- 1 D 5 遠隔講義におけるプレゼンテーション技術の向上を図る教師訓練プログラムの開発・評価(2)
-研修用テキスト教材の開発と評価-
真下知子(平安女学院大学), 谷口由美子(三田学園), 林徳治(山口大学)
- 1 D 6 遠隔講義におけるプレゼンテーション技術の向上を図る教師訓練プログラムの開発・評価(3)
-プレゼンテーション技術演習と評価-
谷口由美子(三田学園), 真下知子(平安女学院大学), 林徳治(山口大学)

(一般研究) 教材開発 11日(土) 15:40~17:40 B会場

- 2 B 1 学習者の理解度を考慮したハイパーテキスト型CAI教材の開発
武岡さおり, 尾崎正弘, 岩下紀久雄(名古屋女子大学), 江島徹郎(愛知教育大学),
足立義則(中部大学)
- 2 B 2 社会情報学部におけるカリキュラムとWeb教材の開発(仮題)
井口磯夫, 込江雅彦, 北原俊一, 松浦聖子, 中尾茂子(十文字学園女子大学),
堀口秀嗣(国立教育研究所)
- 2 B 3 社会情報学部での基礎情報処理教材のモジュール化に関する研究
北原俊一, 井口磯夫, 安達一寿, 込江雅彦, 松浦聖子, 中尾茂子(十文字学園女子大学),
堀口秀嗣(国立教育研究所)
- 2 B 4 パズルを取り入れた数学教育実践の一考察
梅村友規(岐阜大学大学院), 中馬悟朗(岐阜大学)
- 2 B 5 囲碁を取り入れた数学教育の一考察
藤澤博子(岐阜大学大学院), 中馬悟朗(岐阜大学)
- 2 B 6 流通ソフトを利用した栄養士養成教育における化学基礎教育カリキュラムの設計
岸本満, 羽賀雄二(名古屋栄養専門学校), 谷口知司(岐阜女子大学)

(一般研究) 教育情報ネットワーク **11日(土) 15:40~17:40 C会場**

- 2C1 地域の通信ネットワーク(コミネット可児)を生かした学習支援の検討
大塚基(可児市立広見小学校), 加藤直樹(岐阜大学)
- 2C2 学生によるWeb教材の作成とその相互学習
宮地功(岡山理科大学)
- 2C3 小規模教育施設へのインターネット利用環境導入方式の検討
渡辺昌介, 青山昭裕(武蔵野情報学園大学)
- 2C4 Net dayによる校内LANの構築 -地域ボランティアのNet dayへの協力-
山本利一(福井県教育研究所), 田嶋基史(福井県立福井商業高等学校)
- 2C5 校内インターネットにおける情報交換の在り方
日影憲, 加藤直樹(岐阜大学)
- 2C6 Web型グループ学習システムでのセキュリティポリシーに関する研究
小林裕光(埼玉県立大宮中央高校), 安達一寿(十文字学園女子大学), 城台隆光(長崎県教育センター), 石出勉(足立区立谷中中学校), 村松浩幸(中野市立中野平中学校)

(一般研究) 遠隔教育 **11日(土) 15:40~17:40 D会場**

- 2D1 テレビ会議システムを活用した小学校での進路指導(3)
通学区域の自由化に伴う学校情報提供の試み
豊吉博義(穂積町立穂積小学校)
- 2D2 テレビ会議システムを用いた地域連携による生涯学習支援
斎藤陽子(岐阜大学大学院), 松川禮子, 田阪茂樹, 森田正裕, 加藤直樹(岐阜大学)
- 2D3 テレビ会議システムを利用した学校不適応生徒に対する学習支援
磯部裕之(岐阜大学大学院), 加藤直樹(岐阜大学)
- 2D4 課題解決型学習プロジェクトの構築とテレビ会議の有効利用
成瀬喜則, 長山昌子(富山商船高等専門学校)
- 2D5 通信ネットワークによる遠隔学習支援システムの開発(2)
村瀬康一郎, 加藤直樹, 伊藤守規(岐阜大学)
- 2D6 夜間・遠隔大学院における多地点遠隔講義システムの構成と活用
加藤直樹, 村瀬康一郎, 中馬悟朗, 松川禮子, 森田正裕(岐阜大学)

(一般研究) デジタル・アーカイブ **12日(日) 9:30~12:00 A会場**

- 3A1 動画素材のデジタル化とその教育利用に関する一考察-Webを利用した書道の学習から-
末松美樹(岐阜大学), 井上志朗(岐阜大学教育学部附属中学校), 加藤直樹(岐阜大学)
- 3A2 リカレント教育における地域文化情報データベース
高野盛光, 今井昌彦, 本橋進(東海女子短期大学)

(一般研究) 情報社会 **12日(日) 9:30~12:00 B会場**

- 3B1 教員のオンライン化とコンピュータスキル向上の過程
黒田洋子(名古屋女子文化短期大学)
- 3B2 インターネット教育の一考察
高原尚志(東京工芸大学)
- 3B3 日本青年層のモバイル化の現状
小田和義(東京女子体育大学), 杉村淳子(早稲田大学高等学院), 磯崎喜則(日本学園)
- 3B4 情報メディアとコミュニケーション意識の変化について
塚田慶一(東京成徳短期大学), 増澤文徳(東京成徳大学高等学校)
- 3B5 インストラクタ体験による教育効果
角智津子(大手前女子短期大学), 渡辺寛二(大阪電気通信大学短期大学部)
- 3B6 アメリカにおけるネットジェネレーションの出現と教育界の対応に関する研究
望月道浩(図書館情報大学)
- 3B7 学生の受講意欲に寄与する因子について
沖裕貴(京都経済短期大学), 林徳治(山口大学)

(一般研究) システム開発・活用 12日(日) 9:30~12:00 C会場

- 3C1 VRMLの総合研究への応用の可能性(仮題)
広内哲夫(文教大学), 堀恵子, 本田裕樹(文教大学附属中高)
- 3C2 3Dプロッタによる切削システムの試作
堀内和寛, 光成豊明, 伊藤穂高(明星大学)
- 3C3 学習過程における習熟度に応じた個別学習支援システムの研究
村瀬孝弘(中京短期大学), 磯本征雄(名古屋市立大学)
- 3C4 インターネットブラウザの機能を利用・拡張したオーサリングシステムの試作
江島徹朗(愛知教育大学), 尾崎正弘(名古屋女子大学), 足達義則(中部大学),
武岡さおり(名古屋女子大学)
- 3C5 COMMANDシステムのセミナー授業への対応
白川雄三(大阪学院大学)
- 3C6 部品製造工場での新入社員教育におけるハイパーテキスト型教育システムの開発
栢田崇仁(中部大学), 足達義則(中部大学), 尾崎正弘(名古屋女子大学),
江島徹朗(愛知教育大学)

(課題研究2) 情報教育と総合的な学習 12日(日) 9:30~12:00 D会場

- 3D1 教員の情報リテラシー向上支援の研修講座の体系化
新田直, 山下哲也(岐阜県総合教育センター)
- 3D2 高等学校教科情報テキストの作成と実践
佐藤正明(郡上高校), 久世均(岐阜県生涯学習センター)
- 3D3 情報学習テキスト(中学校版)の作成と実践
笠原康弘(岐阜市立藍川中学校), 加藤浩幸(長森中学校), 堀高哉(岩野田中学校),
楢木一郎(藍川北中学校)
- 3D4 小学校の総合的な学習のための情報カリキュラムと教材開発Ⅱ
岩田諦慧(輪之内町立大藪小学校)
- 3D5 情報活用能力の育成についての考察と実践
川地保昌(大垣市立南中学校)
- 3D6 「総合的な学習の時間」における「情報通信ネットワーク」活用の在り方
ー情報リテラシー育成カリキュラムの開発ー
内堀洋伸, 加藤直樹(岐阜大学)
- 3D7 情報教育の普及上の困難点とその回避に関する検討
堀田龍也(静岡大学)

(一般研究) 情報教育 12日(日) 13:00~16:30 C会場

- 4B1 地域における情報教育推進のための基礎資料の開発
中口清浩(岐阜大学大学院), 加藤直樹(岐阜大学)
- 4B2 情報教育の授業方法の提案 ーブレインストーミングを用いてー
川口恭子, 岡本久仁子(梅花短期大学)
- 4B3 自己表現としての短大情報教育の試みービジネスからデジタルコンテンツへー
菅原いづみ(日本学術振興会特別研究員), 中西裕, 細川立彦(戸板女子短期大学)
- 4B5 インターネット活用における情報倫理に関する実践的研究(2)
赤松辰彦(関西国際大学短期大学部)
- 4B6 小学校における情報倫理教育の提言
福田桂子(埼玉県春日部市立粕壁小学校), 井口磯夫(十文字学園女子大学)
- 4B6 小学生を対象とした情報モラル学習の展開と評価
宮田仁(滋賀大学)
- 4B7 情報教育に関する教員研修の事例および課題
黒川マキ(AST関西経理専門学校), 林徳治(山口大学)

(一般研究) 情報教育

12日(日) 13:00~16:30 C会場

- 4C1 ホームページを利用した野草情報の収集
山田信雄(岐阜県各務原市立那加第三小学校)
- 4C2 Webページでの掲示板を活用した授業の構成について
宮地秀徳(高知市立昭和小学校), 村瀬康一郎(岐阜大学)
- 4C3 学校放送とウェブサイトを連動させた小学校英語学習教材の開発
松川禮子(岐阜大学), 富田祐市(福島大学), 久埜百合(文化女子大学)
山内豊(東京国際大学), 箕輪豊(日本放送協会)
- 4C4 インターネット導入期における小学校でのWebページを活用の一提案
若園和朗(岐阜県安八郡神戸町立北小学校), 村瀬康一郎, 加藤直樹(岐阜大学)
- 4C5 人, データ, 映像3つのネットワークの融合を旨として
上水流信秀(糸貫町立糸貫中学校)
- 4C6 Web型グループ学習システム機能と学習場面での授業設計の方法
石出勉(足立区立谷中中学校), 安達一寿(十文字学園女子大学),
城台隆光(長崎県教育センター), 小林裕光(埼玉県立大宮中央高校)
村松浩幸(中野市立中野平中学校)

(課題研究3) 教科教育と情報活用

12日(日) 13:00~16:30 D会場

- 4D1 初等理科教育における情報活用
小田切真(常葉学園大学)
- 4D2 コンピュータを用いた学習における健康教育のあり方についての考察
大西慶一(大阪女子短期大学)
- 4D3 小学校6年生のホームページ作品制作過程における共同作業の分析
坂本徳弥(兵庫教育大学)
- 4D4 英検2級用英単語ソフトの開発と応用
山本健一(岐阜市立女子短期大学), 山田善久(岐阜経済大学),
武田康雄(市邨学園短期大学), 大橋真由美(岐阜市立女子短期大学)
- 4D5 数学の指導においてコンピュータをどう利用するか
永田俊雄(朝日中学校), 中馬悟朗(岐阜大学)
- 4D6 学びを再構成する力を育てるためのコンピュータによる数学教育
中田政晴(羽水高校), 黒木哲徳(福井大学)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10 杉山ビル4階

岐阜女子大学 文化情報研究センター 内

日本教育情報学会 第16回年会実行委員会事務局 (担当: 谷口)

Tel 058-267-5237 Fax 058-267-5238

(郵便振替口座: 00850-3-131749 口座名: 日本教育情報学会第16回年会)

本学会に多方面からご協力を願っており、また昨年の年会会場でもありました国立オリンピック記念青少年総合センターが研究紀要を創刊することになりました。本学会会員も投稿資格がありますのでご案内いたしますとともに、積極的な投稿をお願いいたします。

国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要－創刊号－投稿原稿募集要項

1 創刊のねらい

青少年教育の振興に資するため、広く青少年教育関係者等から青少年教育に関する理論や実践についての研究の成果や報告等を募り、その発表の場とする。

2 発行予定日

平成 13 年 3 月

3 投稿原稿の種類

青少年教育に関する調査報告、実践報告、事例紹介、研究ノート、論文等

4 投稿資格

青少年教育施設の職員、青少年団体の役・職員、社会教育主事・公民館主事・司書・学芸員等の社会教育関係職員、青少年教育関係学協会の会員、青少年教育に関する研究を行う大学・研究所等の研究者等

5 原稿の分量

おおむね、刷り上がり 4 ページ (8,000 字) ～10 ページ (20,000 字) 程度

6 原稿提出締切日

平成 12 年 10 月 31 日

7 掲載の採否等

投稿原稿は、研究紀要委員会（委員長：伊藤俊夫・東京家政大学大学院教授）の指定する者が査読を行い、査読者と投稿者との協議を経て、研究紀要委員会が採否等の決定を行う。

8 原稿の提出方法

原稿は、フロッピー及び用紙に印字したものによる提出を原則とするが、手書き原稿の提出、電子メールによる提出も受け付ける。

9 原稿の提出先

国立オリンピック記念青少年総合センター調査連絡課調査研究係

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL (03) 3467-7201 (内線2453)

E-mail: kiyo@nyc.go.jp

国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要投稿規定

平成12年5月23日
研究紀要委員会決定

1 投稿資格

投稿できる者は、次のとおりとする。

- ① 国立オリンピック記念青少年総合センター（以下「国立青少年センター」という。）の職員
- ② 青少年教育施設の職員
- ③ 青少年団体の役・職員
- ④ 社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等の社会教育関係職員
- ⑤ 青少年教育関係学協会の会員
- ⑥ 青少年教育に関する研究を行う大学・研究所等の研究者
- ⑦ 青少年教育に関心のある者で、国立青少年センター所長が認めるもの

2 投稿原稿

(1) 原稿の種類

投稿原稿は、青少年教育に関する報告（調査報告、実践報告、事例紹介など）、論文（研究ノートを含む）、資料（青少年教育に関する各種データ、情報など）等で、刊行時において未発表のものであること。

(2) 原稿の構成要素

原稿の構成要素は、次のとおりとする。

- ① 標題（邦文及び英文）
- ② 著者名（邦文及び英文）
- ③ 著者の所属・職名（邦文及び英文）
- ④ 要旨（邦文）
- ⑤ キーワード（3～5個程度）（邦文）
- ⑥ 本文（邦文）
- ⑦ 引用文献、参考文献

(3) 原稿の分量

原稿の分量は、要旨（150字～400字程度）、図・表、写真、参照文献を含め、おおむね、刷り上がり4ページ（8,000字）～10ページ（20,000字）程度とする。なお、原稿の分量の算定に当たっては、句読点・括弧・各種記号等は1文字として扱うとともに、図・表・写真はA4判1ページを約2,000字として換算すること。

3 執筆要領

(1) 原稿の書式

原稿の書式等は、次のとおりとし、特別の場合を除き、横書きとする。

1) パソコン用ワープロソフト又はワープロ専用機の場合

A4判縦置き、40字×30行とし、上下左右に各2～2.5cm程度の余白をとること。

標題を始めとする構成要素を1ページ目の冒頭から記入していくこと。各構成要素の間は1行程度の間隔をとること。

フロッピー・ディスクは、3.5インチ2HDを使用すること。保存形式は、特に問わない。また、ラベルには、氏名、原稿の標題、使用機種又は使用ソフト名及びバージョンを記入すること。

2) 手書きの場合

A4判縦長の400字詰め原稿用紙を使用すること。

標題を始めとする構成要素を1ページ目の冒頭から記入していくこと。各構成要素の間は1行程度の間隔をとること。

(2) 配字

文章の初字及び文章を改行する場合の初字は第2字目から書き出し、折り返しの初字は第1字目とする。

(3) 見出しの番号付け

見出しにおける章・節・項の展開は、原則として、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ……、1、2、3……、(1)、(2)、(3)……、の順序で表示すること。なお、箇条書きの番号付けは、囲み数字か英小文字等を用いて表示すること。

(4) 図・表、写真の番号付け

図及び表は、本文中には入れず、一図、一表ごとに別紙（パソコン用ワープロソフト又はワープロ専用機を用いて執筆する場合は別ページ）に書き、一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに、本文に出てくる順に、「図1」、「表1」の要領により一連番号を付けるとともに、番号に続けてキャプション（見出し及び説明）を付ける。また、本文にそれぞれの挿入箇所を指定すること。

写真は、写りの明瞭なもので、手札版以上の大きさに焼き付け、図及び表の扱いに準じて一連番号、キャプションを付けたうえ、挿入箇所を指定するものとする。なお、カラー写真の場合は、冊子体ではモノクロームの印刷となるが、下記8の国立青少年センターが行う情報提供サービスにより公開するものはカラー表示となる。

(5) 引用文献、参考文献

引用文献、参考文献は、本文中の該当箇所の右肩に「⁽¹⁾」、「⁽²⁾」の要領により一連番号を付け、本文の最後に、番号順にまとめて記載する。

－記載例－

1) 論文の場合：著者名、論文名、誌名、巻号、発行年、掲載ページ

神園太郎、「青少年の未来」、青少年研究、第8号、1995、pp.10-15

Wellvalley, J., "Adolescent Girls and Outdoor Life", Journal of Youth Research, 8th, 1999, pp.356-379

2) 単行本の場合：著者名、書名、版表示、出版者、発行年、掲載ページ

代々木花子、「野外活動概論」、3版、青年書房、1992、pp.98-102

3) 翻訳書の場合：著者名、書名、版表示、出版者、発行年、掲載ページ

ディーン、J., 「青少年とメディア」、初版、渋谷次郎訳、少年書院、1989、pp.75-76

4 原稿の査読及び採否等の決定

投稿原稿は、国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要委員会（以下「研究紀要委員会」という。）の委員又は研究紀要委員会が適当であると認める外部の専門家による査読を行う。また、採否等の決定は、執筆者と査読者との協議を経て、研究紀要委員会が行う。

5 別刷

採択した原稿の執筆者のうち希望者には、抜刷り30部を贈呈する。

6 原稿料等

原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

7 原稿の校正

原稿の校正は、執筆者に依頼する。

8 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権及び版権は、国立青少年センターに属する。なお、掲載された論文の一部又は全部は、原則として、電子的に蓄積し、国立青少年センターが行う情報提供サービスにより公開する。

9 原稿の提出方法及び提出先

(1) 提出方法

原稿は、フロッピー・ディスク及び用紙に印字したもの、又は、手書きしたもの（コピーでも可）を、郵送又は持参するか、E-mailの添付ファイルにより送付すること（ただし、写真等については郵送又は持参すること）。なお、フロッピー・ディスク及び印字又は提出された原稿は、採否にかかわらず、原則として返却しない。また、原稿の末尾には、住所及び電話番号（FAXがあればFAX番号も）、平日日中の連絡先及び電話番号（FAXがあればFAX番号も）を明記するとともに、原稿等については必ず控えをとっておくこと。

(2) 問い合わせ及び提出先

国立オリンピック記念青少年総合センター調査連絡課調査研究係

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL (03) 3467-7201 (内線2453)

E-mail: kijo@nyc.go.jp

国立情報学研究所（前：学術情報センター）電子図書館サービス（本学会誌、年会論文集が掲載されています）の機能の改善について連絡がありましたのでご案内いたします。

連絡先：国立情報学研究所 開発・事業部 コンテンツ課 画像コンテンツ係

Tel 03-4212-2315,2316 Fax 03-4212-2375

NACISIS-ELS の機能改善について

[変更時期] 平成12年9月4日から

[変更内容]

1. ログイン画面の変更

現 電子図書館サービス利用の際、電子図書館サービスのトップページ(ログインページ URL: <http://els.nacsis.ac.jp>)で利用者番号を入力し、認証された後に利用する方法を取っています。

新 利用者番号を持たない方でも、電子図書館サービスに収録されている論文の検索、タイトルの一覧表示、目次の表示を行うことができるようになります。論文の詳細情報及び論文の画像表示・印刷を行うには、利用者番号を入力し、認証された後に利用することになります。

2. 有料(著作権使用料)画像表示・印刷時の確認画面の表示

電子図書館サービスでは、学協会毎に著作権使用料を設定しているため、学協会によっては無料のものもありますが、有料(画像表示・印刷に応じてページ単価を設定しています)のものもあります。

現 有料の学協会の画像表示・印刷を行う際に、確認画面が表示されないため、あらかじめ画像表示・印刷を行う冊子の著作権使用料を確認しておく必要があります。間違って画像表示・印刷を行った場合も、課金されます。

新 有料の画像表示・印刷する際に、確認のための画面を表示します。

3. 英語版サーバの立ち上げ

現 分野・学協会リストは日本語のものしか用意されていません。

新 日本語サーバとは別に、メニュー及び分野・学会名リストを英文化した英語版サーバを追加します。

4. セキュリティ機能の追加 (9月以降)

現 パスワードは暗号化されていますが、インターネット上の通信のデータの暗号化に対応していません。

新 インターネット上の通信のデータの暗号化に対応するため、Apache-SSL(Secure Socket Layer)を導入して電子図書館サーバの利用者番号、パスワード、データ及び利用料金等を暗号化し、セキュリティを強化します。

5. 専用クライアントソフト及びプラグイン・ソフトの提供 (9月以降順次)

ユーザインタフェースの操作性の向上を図った専用クライアントソフトや Windows2000、MacOS9等に対応したプラグイン・ソフトを提供します。具体的なリリース日時等はホームページ(URL: <http://www.nii.ac.jp/els/els-j.html>)でお知らせします。

以上